

## これまで実施した三二博物館

横山謙二



2004年 ミニ博 ギャラリートークの様子

ミニ博物館は、NPOの自然環境教育に関わる事業として2004年から毎年開催されてきました。その歴史は、自然博推進協時代の1999年8月4日～10日にかけての1週間、静岡朝日テレビ青葉ビル2階ホールにて開催された『静岡の自然』が始まりです。この時のミニ博は、静岡植物研究会、静岡昆虫同好会、静岡県地学会など、多くの県内の自然史に関する研究団体や研究者が協力して行われ、会場を提供していただいた静岡朝日テレビをはじめとする多くの企業の支援もありました。その結果、多くの来場者に恵まれ、期間中の来場者数が950人に達しました。さらに自然博推進協は、このミニ博で作成した解説文や写真をもとに、「しずおか自然図鑑（静岡新聞社）」を発行しました。

その後の自然博推進協が主催する展示会は、2001年11月にアゴラ静岡『しずぎんギャラリー四季』で開催した駿河湾の貝展があります。この展示会は、この前年10月にご逝去された寺田 徹氏により長年かけて収集された駿河湾を主体とした膨大な貝コレクションです。わずか6日間の短い開催期間でしたが、500名近い方が見学にこられました。

2003年に、自然博推進協がNPO自然博ネットとなり、その年の9月より静岡県教育委員会三島分室で「自然学習資料保存事業」が始まり、県内外の自然系標本の収集と整理が行われました。この保存事業で収集された標本を普及活動に利用し、2004年に『ミニ博物館 静岡の自然』が開催されました。この頃の資料保存事業室の標本数は、まだ現在のふじの



2005年ミニ博『静岡の自然』

くに地球環境史ミュージアム（以下：県ミュージアム）の標本ほど数が多くなく、搬入されたばかりの田辺 積氏化石コレクションまでも展示に活用されました。また、開催期間中の8月28日と29日には、ギャラリートークも行われました。

このミニ博は自然博推進の頃のミニ博とくらべると、はるかに規模が小さいものでしたが、三島分室は、JR三島駅から徒歩5分のところで、交通の便に恵まれていたこともあってか、400名近くの前来者がありました。

2005年になると資料保存事業室は、清水区辻にあった健康福祉センター庵原分庁舎内に引越しました。この新しい資料保存事業室（のちの静岡県自然学習資料センター）の見学会もかねて、その年の8月に『ミニ博物館 静岡の自然』を開催しました。また、開催期間中の20日には袋井-掛川で化石採集会、22日には興津川支流の黒川の自然観察会も行いました。このミニ博は、引越しをしたばかりで、資料保存事業室の知名度が低く、場所も駅から離れた場所にあり、わかりにくい場所にあっただため、あまり来場者には恵まれませんでした。その後、2006年にも、同じ場所でミニ博物館『静岡の自然』を行いました。来場者はあまり増えませんでした。

そこで、2007年のミニ博は開催場所を変え、静岡科学館る・く・るで、『絶滅のおそれの動植物』を行いました。このミニ博はこれまでとは桁違いの約5,000人近くの前来者がありました。

またこの年の7月、8月には、2005年・2006年のミニ博で作成した展示パネルを清水区辻公



2007年 静岡市科学館るくるで開催したミニ博



2008年1月 『稲葉 茂氏コレクション展』



2008年8月 『静岡の化石・鉱物展』

民館や清水区鳥坂にあるクレッセ静岡で展示しました。また翌年1月には、静岡県自然学習資料センターで標本室に搬入されたばかりの稲葉 茂氏の膨大な量の標本を使い、初めての収蔵コレクション展『稲葉 茂氏コレクション～蝶を愛して日本から世界へ～』を開催しました。その後の収蔵コレクション展は、2008年に大橋昭彦氏化石コレクションを中心とした『静岡の化石・鉱物展』、2009年には貝類をテーマに寺田 徹氏、杉本順一氏、植田 享氏のコレクションを中心とした『貝に魅せられて』、2011年には有馬速水氏昆虫コレクションで『日本の蝶と自然（静岡県企画広報部と共催）』を開催しました。収蔵コレクション展は人気が高く、特に2008年の『静岡の化石・鉱物展』は大変に人気があり、わずか1週間の開催期間にもかかわらず約500人の来場者がありました。

2010年度になると、県企画広報部では資料保存事業から一歩踏み出して、資料保存事業で収集された多くの標本を県民への普及教育に活用していくために『静岡県の魅力を体感するための自然史資料の調査と展示事業』を行いました。NPOは、この事業に全面的に協力することになり、そして今までNPOが独自



2010年8月 県と共催 『富士山の自然』

で行ってきたミニ博は県企画広報部と共催で行うことが決まり、8月に『富士山の自然』が開催されることになりました。

その後2011年に、この事業は自然史資料活用事業と名称が変わり、ミニ博は自然学習資料センターをはじめ、県内各地の施設で県の事業として開催されることになりました。さらに自然史資料活用事業は、2015年には教育普及事業支援業務となり、県ミュージアムが主催するミュージアムキャラバンやミニ博物館・出前博物館になりました。

自然博推進協時代の1999年から始まり、2004年から2010年にかけて毎年行ってきたNPO主催のミニ博物館は、静岡県民の方々に普及啓蒙をはかり、県立自然史博物館の必要性を醸成していくのが主な目的でしたが、県ミュージアムができることでその目的は達成されました。これからのミニ博は、県ミュージアムの自然教育普及活動として開催され、NPOはこの活動に協力して行くこととなります。これまでNPOミニ博にご協力・応援して下さった方々、またミニ博を見学して下さった皆様に心より御礼申し上げます。